

説明会記録

説明会名称	幡豆支所周辺の公共施設再配置利用者説明会（文化交流センター北館）	
日 時	令和8年8月8日(土) 午前10時から午前11時45分まで	
場 所	文化交流センター北館2階大会議室	
出席者	【参加者】	
	66名	
	【事務局】	
	資産経営局長	渡辺 英昭
	資産経営局 資産経営課主幹	稲垣 淳一
	資産経営局 資産経営課長補佐	鈴木 勇三
	資産経営局 資産経営課主査	石川 達也
	資産経営局 資産経営課主事	古澤 知佳
	【関係部局】	
	子ども部 子育て支援課長	本田 尚代
	交流共創部 観光文化振興課長	蛭川 洋行
	交流共創部 観光文化振興課長補佐	近藤貴美代
	教育委員会事務局 教育部次長兼図書館長	犬塚佐重喜
内容	【記録写真】	
		
	【意見や質問の要点】 Q1) リニューアル案では、児童館が狭い。小中高生も利用する権利がある。図書コーナーも狭い。インターネット予約というが、子どもはパソコンを使用できないし、本棚から手に取って見たい。人口を増やすためには子育て世代	

	を呼び込むことが大事だと思うが、この規模では引っ越してこようとする人が減ってしまうと思う。10年前、幡豆に魅力を感じて引っ越した。図書館、児童館は残してほしい。津波の心配もなく、見晴らしもいいので観光資源になりうると思う。 → 人口増加に取り組むことは大切だと思うが、人口減少は全国的な問題であり、楽観視はできない。跡地については決まっていないが、この見晴らしを生かしていきたいと考えている。 ・文化交流センター利用者への説明会が最後なのはなぜか。他への説明会を先に開催して、「廃止してもいい」という意見を事前にもらっておきたかったのではないか。 → いきいきセンターは機能が廃止になるため事前に説明会を行った。 ・閉架図書をなくし、規模を小さくすることは、幡豆の歴史を削ることになる。支所3階の雨漏りを直して図書館にすれば、「海に見える図書館」になる。 → 支所3階の図書館については、建築基準法が厳しく莫大な費用がかかる。図書館となると、建替えるしかない。 ・人口を増やすには、魅力がなければ人は来ない。観光客を呼ぶだけではない工夫してほしい。 ・旧西尾市の行事に、お金をかけすぎ。 ・(商工会会員) 商工会の話がない。幡豆の振興イベントの窓口になっており、なくなるのは困る。 → 北館に商工会事務室があるのは承知している。この案で進めることになれば、今後、相談することになると思う。 ・統廃合は仕方ないが、これらの施設は先人が残したもの。幡豆町民の税金で建てたものである。吸収合併されたわけではない。経費ありきで話されるのは疑問。 ・一年半前に引っ越してきた。この規模の図書館があることは、人を呼ぶ理由になっていると思う。高台にあり、津波から逃げられる場所で安心している。土砂災害警戒区域内であることが問題であれば、山側の整備をすることも考えられるのではないか。南館は区域外なので、そのまま施設として利用できると思う。災害時の一時的な避難所として残っていればいいと思う。 ・(将棋部) 何十年と北館を利用し、将棋大会や子ども将棋を開催してきた。年3、4回、15人程度で利用している。今後も楽しめる場所を作してほしい。 → いきいきセンターを文化交流センターの代わりと考えているため、有料
--	--

	ではあるが利用可能。 ・図書館を図書コーナーにすることだが、一色や吉良の図書館は、市としてどのように考えているのか。 → 現時点では、具体的な検討はしていない。 ・絵本も購入すると高い。図書館なら気軽に借りられる。閉架書庫がなくなるということだが、どこにいくのか。 → 全部捨ててしまうことは絶対にありえない。他の図書館へ移すことを想定している。本を手にとってみることは重要なこと。相当数は残すことになると考えている。 ・西尾市全体で考えた時、一色、吉良の図書館は、津波の浸水区域にあると思う。幡豆はどちらかという安全な場所。お金がないから縮小ではなく、防災の観点も含めて検討してほしい。 ・（東幡豆町出身）西幡豆町に集めすぎ。東幡豆町や鳥羽町に建設すれば、町が盛り上がると思う。 ・集約の考え方が雑。図書コーナーとこどもひろばが隣にあるのは疑問。歴史などの書籍と絵本を分けることもできるはず。同じ場所に集約する必要はない。予約というが、何度も足を運ぶ必要があり、子育て世代や高齢者、車いす利用者には大きな負担となる。 ・行政 VS 市民の説明会になってしまっている。資料については、事前にホームページで動画を流すとか、地元の協力を得て店舗や民家に貼りだして周知しておき、説明会では、市民の意見を吸い上げる場にすればよかったと思う。 ・いきいきセンターが文化交流センターになれば、幅広い年齢層の交流の場となり、いいことだと思っていたが、規模が小さくなることを説明し、YESかNOで答えさせることは、説明や質問の仕方がもったいないと感じた。 ・みんなが集まっている場所に来て、話をすればよかったと思う。 → 人のいる場所に出向き意見を聴くことも大切だと感じた。参考にさせていただく。 ・2年前に移住した。幡豆は、海あり、山ありで魅力を感じている。人口減少は避けられないというが、行政が魅力的なまちづくりをして、人口が増加している町はいくらでもある。人口減少ありきでの計画では縮小することしか考えられなくなってしまう。統廃合の前に、10年後、20年後のまちづくりを住民と一緒に考えていくべきと思う。すでに決定している事項はあるのか。 → 自然の豊かさを生かしたいと思っている。人口増加について努力すべきとも感じている。決定事項はない。意見を聴きながら考えていきたい。
--	--

	・（絵画クラブ）年間２４回、北館を利用している。今後も同様に利用できるのか。 → 予約して、場所を確保いただくことになる。 ・修繕すれば使用できる施設があるならば修繕すべき。今まで、どれほど修繕してきたのか。市側の努力を説明してもらわないと納得できないと思う。 → 市内にはたくさんの施設がある。すべての施設を維持していくことは困難なのが現実であり、統廃合を考えていかなければならない。 ・（はず体操クラブ）３０名以上で、南館を４０年以上利用してきた。南館がなくなったら、どこで活動すればいいのか。 → 規模に応じて貸室を利用させていただく。幡豆地区以外の施設も利用いただきたい。（「狭い」「幡豆ではできないのか」との意見あり） ・費用はかかるかもしれないが、図書館は新築してほしい。 ・幡豆は岩盤がしっかりしている。一色、吉良に比べれば住むにはいいまち。他のまちから旧幡豆町にみんなが来るような施策を考えてほしい。 ・支所を改修する場合は、外階段を設置するなどして、３階も利用可能としてほしい。 → 支所３階については、現状では難しいが、工夫すれば使用できる余地はあると思っている。ただし、支所を図書館にすることは難しいことは承知してほしい。 ・子どもたちの足は自転車。図書館・児童館は子どもたちが安心していられる場所。親として、子どもたちの居場所として残してほしい。自分が子どもの時は、支所（旧役場）は大人の場所、図書館・児童館は子どもの場所という印象だった。 → いきいきセンター２階に、学習スペースを考えている。見晴らしがよい場所で中高生に勉強してもらえたらと考えた。 ・総合管理計画では、幡豆図書館は「災害時の危険エリア内にあることを踏まえ、移転新築・複合化を検討」となっている。全市民に公開されているし、市の偉い方もご存じのはず。幡豆児童館は、中央児童館や一色児童センターとほとんど差がないと思うが、なぜ、幡豆児童館、図書館は廃止なのか。短期間で無理やり統廃合するのではなく、管理計画に基づき検討すべき。 ・ＡＩが作成したイメージ図について、 図書コーナー…机も新聞置場もなく、単なる休憩コーナーである。
--	--

	学習スペース…南から日が差し、通路の横にあり、学習する場として適さないのではないか。 こどもひろば…こども用トイレや洋式化なども考えられるが、スペースを確保できるのか。 ・支所として、防災関係の拠点になると思うが、停電対策などはクリアできるのか。電力について考えた上で案を作成したのか。 → 詳細は決まっていない。解決策があって提示しているものではない。 ・資料館は手を付けないことになっているがなぜか。南館は、避難所ではなく、もっと大切なものとして防災計画に載っている。その必要性を考えるならば、他に移すことを事前に検討し、その結果も説明すべき。 → 文化財収納施設は、市民が直接利用する施設ではないとして除外した。文化財をどうするのか決定後、対応を考えていく。 ～ アンケート用紙を記入・提出いただくよう依頼し、終了 ～
--	---